

# 与那国島で採集された興味あるコメツキムシ 2 種について

鈴木 互

〒 211-0031 川崎市中原区木月大町 6-1 法政大学第二高等学校 生物科  
(elater2003elater@yahoo.co.jp)

## Notes on Two Rare Elaterid Beetles Collected from Yonaguni-jima Island, Okinawa, Japan

Wataru SUZUKI

与那国島は琉球列島の中では小さな島であるが、ノブオオアオコメツキ *Campso sternus nobuoi* Ôhira, 1966 やヨナグニホソクシコメツキ *Priopus yonaguni* (Kishii, 1982) などの固有種の存在や、台湾との関わりを示すツヤヒゲトコメツキ *Drapetes jansoni* Bonvouloir, 1895 やサイトウクリイロオオクシコメツキ *Melanotus melanotoides saitorum* W. Suzuki, 1984 が生息するなど、生物学地理学的にも興味深いところである。これまでに 25 種のコメツキムシが知られている (Kishii, 1999; 有本, 2005) が、交通が不便であることもあり、同じ八重山諸島の石垣島に比べると調査は十分とはいえない。

筆者は 2018 年 7 月に沖縄県与那国島を訪ねた際、興味深い 2 種のコメツキムシを得ることができたので、ここに若干のコメントをつけて報告しておきたい。報告をするにあたり、いろいろとご教示いただいた大阪市の有本久之氏、比較標本である久米島産のトカラコハナコメツキをご恵与くださった津市の乙部宏氏に厚くお礼申し上げる。

### 1. シロズツヤケシコメツキの近縁種 *Megapenthes* sp. near *shirozui* Kishii (Figs. 1-2)

1♀, インビ岳西側斜面 (80 m), 3-6. VII. 2018 (UV LED 付き枝掛け式の FIT), 鈴木互採集。

ツヤケシコメツキ属 *Megapenthes* は、9 種が日本から記録されているが (Kishii, 1999, 2006; Arimoto, 2011), このうちシロズツヤケシコメツキ *Megapenthes shirozui* Kishii, ツシマツヤケシコメツキ *M. seinoi* Kishii, オオツヤケシコメツキ *M. ootsuboi* Arimoto, シバタツヤケシコメツキ (アマミツヤケシコメツキ) *M. taichii* Kishii, ミヤコツヤケシコメツキ *M. yagii* Kishii, オガサワラホソキコメツキ *M. kusuii* Ôhira, オガサワラツヤケシコメツキ *M. makiharai* Ôhira, *M. yahiroi* Kishii (和名未確定) は大きな複眼と長い触角を共有する点で互によく似る (ここでは、仮にグループとしておく)。今回与那国島から採集された個体も同様の形質を持っており、

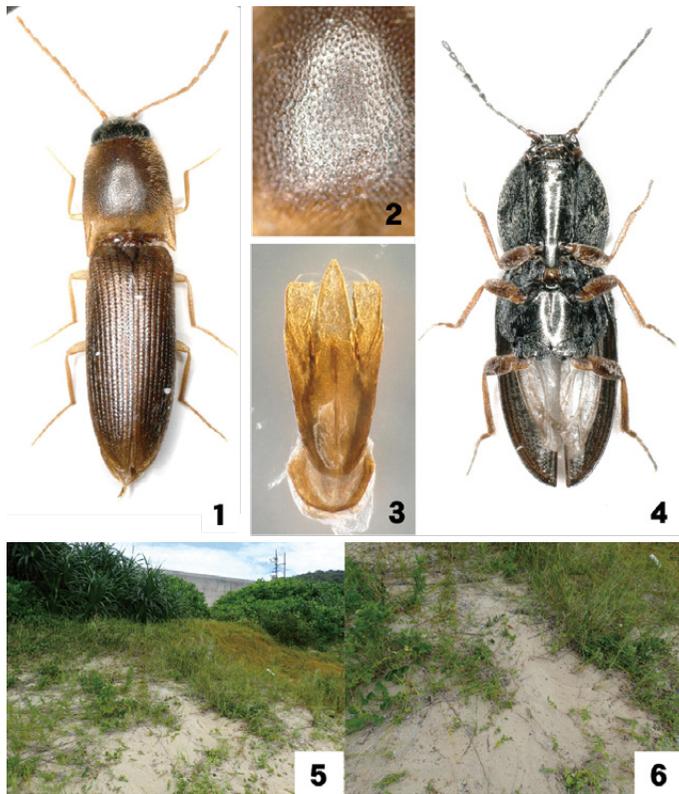
このグループに入るものであった。与那国島からは、有本久之氏により、当時シロズツヤケシコメツキの奄美大島亜種として扱われていたシバタツヤケシコメツキ *M. shirozui taichii* という学名ですでに記録されているが、与那国島産の個体は本州亜種の *M. s. narukawai* に比べ、「体色はより暗色で、体幅は明らかに幅広い」こと、「前胸背板の点刻は、より大型で密に印する」などの違いが指摘されている (有本, 2005)。

形態. ♀. 体長: 7.7 mm; 幅: 1.9 mm. 触角は頭前縁から末端までの長さ: 3.0 mm. 頭部+前胸背板中央長: 2.6 mm. 上翅長は 4.9 mm で基部 1.9 mm の 2.6 倍. 体は前胸背板後角幅の約 4 倍. 色彩は褐色であるが、頭部は黒褐色で、前胸基部および脚は黄色となる。触角は長くないが、明らかに前胸後角を越える。

今回、与那国島で採集された個体は、雌個体であるため、有本 (2005) が記録した雄に比べると触角が短い、体幅が広いこと、頭と前胸を合わせた長さ上翅の長さの比は、0.53: 1.0 と有本の写真とほぼ一致すること、前胸背板の点刻の状態も有本 (2005) の記載と一致したことから、これらの個体は雌雄の関係にあるものと判断した。

これまでにこのグループのコメツキが記録された地域の中では、地理的には宮古島が最も近いが、与那国島産の個体は前胸背板が台形に近く、後角は短大で鈍いのに対し、宮古島産のミヤコツヤケシコメツキは、前胸背板はほぼ平行に近く、後角は長く、先端は鋭く尖るなどの違いが認められた。近隣の石垣島、西表島、台湾からの記録はこれまでになく、現時点では与那国島産と形態的に一致するものは見いだすことはできなかった。ここでは、与那国島産の雌個体の形態を簡単に記載することにとどめ、分類学的な検討は今後の研究に委ねたい。

### 2. トカラコハナコメツキ *Paracardiophorus tokara* Nakane et Kishii, 1955 (Figs. 3-4)



Figs. 1–5. Two elaterid beetles collected from Yonaguni-jima Island. 1, *Megapenthes* sp. near *shirozui* Kishii, ♀, dorsal view (7.7 mm); 2, do, punctuation on the central portion of pronotum. 3, *Paracardiophorus tokara* Nakane et Kishii, ♂, ventral view (5.3 mm); 4, do, male genitalia, ventral view (0.8 mm). Figs. 5–6. Hikawa-hama, a habitat of *Paracardiophorus tokara*.

2 exs., 比川浜 (5 m), 2. VII. 2018, 鈴木互採集; 6 exs. 同地, 4. VII. 2018 (うち 2 個体はアルコール液浸), 鈴木互採集; 2 exs., 同地, 5. VIII. 2018, 鈴木互採集.

本種は、屋久島、宝島、奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、中之島、与論島、沖縄島、渡名喜島、座間味島諸島、久米島、石垣島などに広く分布することが知られているコメツキムシである (大平, 1997; 鈴木・乙部, 2013). これまでに 5 亜種に分けられているが、識別に用いられていた小顎枝末端節の形質には個体変異が認められることから、この形質により亜種を識別することは困難とされている (大平, 1986, 1997). 久米島で発見された雌個体は、後翅が縮小しており、飛翔は難しいと考えられているが (鈴木・乙部, 2013), 近くに位置する沖縄島では、飛翔する個体が多数観察されている (有本, 2014). このことから、沖縄島産の個体は基産地のトカラと同様に後翅の縮小は認められないものと思われる。今回、与那国島から発見された個体は、

雌雄ともに後翅の縮小が認められたが、久米島産の個体に比べると長く、より後方に伸長することが確認された。ただ、この後翅長では飛翔することは難しいと考えられ、採集場所での 3 日間の観察では、正位置から盛んに飛び跳ねる様子は確認されたが、飛翔して逃げる個体はいなかった。

比川浜は全長約 600 m で、波打ち際から 40 ~ 50 m のところから海滨植物が自生しはじめる。本種が確認されたのは、波打ち際から 50 m の場所であった。植物の根際の珊瑚砂を篩にかけると、多数のマルヒラスナゴミムシ *Diphyrrhynchus oharensis* Nakane, 1973 に混じって本種が得られた。また、根際の砂を蹴散らすと中に隠れていた個体が現れ、歩き回ったり、盛んに飛び跳ねたりする様子が観察された。しかし、同じような環境なら海滨のどこでも見られるのかという点、そうではないようで、3 日間浜を歩いて調査したが本種を観察することができたのは 1ヶ所。しかも 3 m 四方のごく狭い範囲に限られていた (Fig. 6). 同様の事例は、すでに観察がされ

ており、大平 (1997) は宝島での観察で、生息場所は集約的であったとし、有本 (2014, 2016) は、沖縄島での観察で、礫と植生が混在して覆う場所に多くの個体が集中して生息する集合性が認められたと述べている。

与那国島で本種が観察されたのは、シンリ浜の一部のみで、他の浜 (カタブル浜、ナーマ浜、ナンタ浜) でも同様の環境を探してみたが、残念ながら本種を見いだすことはできなかった。

与那国島産の個体は、後翅が縮小する点では久米島産の個体とよく似るが、詳しく調べたところ、両者の間には表 1 に示したような違いが認められた。ただ、調査することができた個体数が久米島産は 1 個体と少ないため、この違いが地域によって安定した形質なのか、個体変異の範疇となるものなのかについては、もう少し個体数を見た上で判断したい。ここでは、調査できた個体においては、このような形質の差が認められたことを示しておきたい。

表 1. 与那国島と久米島産のトカラコハナコメツキ雌の比較.

比較形質	与那国島産	久米島産
触角の色彩	第 1 節のみ褐色で、2 節以降は黒褐色	第 1-2 節は黄褐色、3-5 節は基部半部は黄褐色
前胸背板中央部の点刻	やや大型の点刻の間に小点刻が混じる やや大型の点刻は小点刻の直径の約 2 倍	中型の点刻の間に小点刻が混じる 中型の点刻は小点刻直径の 1.5 倍
上翅の第 1・2 条線	基部の点刻は長楕円形で大きく、その長さは点刻間の距離とほぼ同じか長い	基部の点刻は円もしくは楕円形で小さく、その長さは点刻間の距離より明らかに短い
後翅の伸長具合	腹部長の 9/10 まで達する	腹部長の 7/10 まで達する

引用文献

有本久之, 2005. 与那国島で採集されたシバタツヤケシコメツキの記録. 甲虫ニュース, (150): 18.  
 Arimoto, H., 2011. Notes on elaterid beetles (Coleoptera, Elateridae) from East Asia (IV). Four new species of elaterid beetles from Japan. Elytra, New Series, Tokyo, 1: 245-252.  
 有本晃一, 2013. 奄美大島におけるアマミツヤケシコメツキの記録と若干の知見. さやばねニューシリーズ, (10): 24.  
 有本晃一, 2014. 沖縄島の海浜におけるコメツキムシ科甲虫 3 種の記録と生息環境. さやばねニューシリーズ, (16): 38-39.  
 有本晃一, 2016. 海浜性コメツキムシ 2 種の対照的な活動性. さやばねニューシリーズ, (23): 23-24.  
 Kishii, T., 1977. Some new forms of Elateridae in Japan (VII). The Scientific Reports of Kyoto Prefecture [Annual Report of Private Schools in Kyoto Prefecture], (14): 49-61.

Kishii, T., 2006. A revisional study on *Megapenthes shirozui* (Coleoptera: Elateridae) and its allied species from Japan, with descriptions of four new taxa. Entomological Review of Japan, 61: 55-68.  
 大平仁夫, 1986. 日本産コハナコメツキの若干種について. 越佐昆虫同好会々報, (62): 19-38.  
 大平仁夫, 1997. 日本産コハナコメツキとその近縁種について (甲虫目: コメツキムシ科). 比婆科学博物館研究報告, (35): 1-16, pls. I-XIV.  
 鈴木 互・乙部 宏, 2013. 久米島から採集された興味あるコメツキムシについて. さやばねニューシリーズ, (10): 5-12.

(2019年9月24日受領, 2019年11月20日受理)

【短報】宮古諸島多良間島からのアリヅカムシ (ハネカクシ科アリヅカムシ亜科) の初記録

野村 (2012) は南西諸島に産するアリヅカムシを総括し、さらに野村 (2015) はそれまでに琉球列島各地から報告していた、中瀬式ライトトラップによるアリヅカムシの採集記録を総覧した。沖縄諸島と先島諸島の中に位置する宮古諸島各島からは、次の種数のアリヅカムシが産することがすでに知られている：宮古島 5 種、池間島 2 種、来間島 1 種。



図 1. 多良間島で採集された *Centrophthalmus* sp. ♀ (スケール: 0.5 mm).

筆者の一人、松村は、沖縄県立博物館・美術館による島の総合調査の一環として、2019年10月、宮古諸島の西端に位置する多良間島に渡島し、アリヅカムシ 2 頭を採集した。環境の異なる 4 ケ所にボックス

スライトを設置したが、本標本は和牛放牧地に面した牛舎横のライトより得られた。

この標本のうち 1 頭が松村から野村へ同定依頼として郵送され、野村がこれを検したところ、*Centrophthalmus* sp. 1 ♀ と同定された。多良間島からはアリヅカムシの初めての記録と思われるので、ここに報告する。

<採集データ> *Centrophthalmus* sp. 2 exs., 宮古諸島多良間島 (宮古郡多良間村仲筋), 4. x. 2019, 松村雅史採集。

引用文献

野村周平, 2012. 南西諸島のアリヅカムシ概観 (付ハセガワモモトアリヅカムシの新分布記録). さやばねニューシリーズ, (8): 38-47.  
 野村周平, 2015. 南西諸島で灯火に集まるアリヅカムシ概観 (付・2015年6月に沖縄島で中瀬式ライトトラップによって採集されたアリヅカムシの記録). さやばねニューシリーズ, (20): 17-21.

(野村周平 国立科学博物館動物研究部 (nomura@kahaku.go.jp))  
 (松村雅史 910-1303 島尻郡与那原町与那原 3219-9 (qqqmm@comet.ocn.ne.jp))